

年月日	17	12	05	ページ	09	NO.	
-----	----	----	----	-----	----	-----	--

受託試験を海外展開

神戸工業
試験場 航空機関連需要狙う

【神戸】神戸工業試験場（兵庫県播磨町、鶴井昌徹社長、079・435・5010）は、受託試験事業の海外展開を始めた。7月に国内企業として初めて業務提携したフランス国営研究機関の技術分野の海外売上高を4億15億円に伸ばす。エアバスなど航空機関連メーカーからの受注を増やそう。現在、国内航空機分野の年間売上高は約4億円。国内需要もさらに取り込みつつ、5年後をめどに同分野の海外売上高を4億15億円に伸ばす。神戸工業試験場は現在、米ゼネラル・エレクトリック（GE）、米ボーイングなどからサプライヤー認定を受けている。仏国営研究機関「機械産業技術センター」（CETI

M、セティム）との提携を機に、新たにエア



受託試験事業の海外展開を始めた神戸工業試験場の社屋

バスを加えた航空機関連メーカーからの受注を加速する。

経済産業省は仏政府と3月に覚書を交わし、エアバスと日本企業の連携支援を打ち出した。神戸工業試験場は多くの日本企業がエアバスと取引を拡大すると判断。エアバスと関係の深いセティムと提携した。